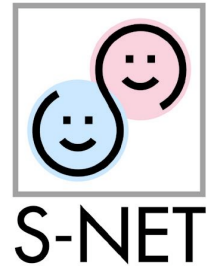


# KSK湘南ふくしネットワーク オンブズマン

SNET 広報 21



編集責任者：NPO 法人湘南ふくしネットワークオンブズマン 高山 直樹  
事務所：〒253-0044 神奈川県茅ヶ崎市新栄町 13-48 ワラシナビル 5階  
電話・FAX：0467-85-6660 直通電話：090 - 4937 - 4904 定価 100 円  
ホームページ：http://www.npo-snet.com eメール：info@npo-snet.com

## 茅ヶ崎市と成年後見支援センターとの協働事業 「自分らしく生きる ～私の後見人活動～」を開催！！

2010年2月27日(土) 湘南ふくしネットワークオンブズマン(Sネット)「成年後見支援センター」と茅ヶ崎市との協働推進事業の一環として、「自分らしく生きる ～私の後見人活動～」として権利擁護シンポジウムを開催いたしました。



今回は、実際に後見活動をされている社会福祉士の皆さんをお招きし、身上監護の具体的な話をしていただきました。

基調講演は、栃木県宇都宮市で独立型の社会福祉士事務所を開き、後見人を受任されている大門 亘氏を講師にお招きし、また、シンポジストとして地元茅ヶ崎で後見活動をされている3人の社会福祉士においでいただき、Sネットの相川弁護士のコーディネートで3時間に亘って具体的な話を伺いました。(詳しくは、次号「WISH!」第6号で)(小野田智司)

## 『死を意識して生を生きて35年～透析者の気持ち』梅田 和彦 氏

オンブズマン活動の中で、利用者の方から、「私は透析患者だが、介護をする職員が透析の知識がなく、それで私の介護ができるのかと不安になる」という訴えがありました。また、日常生活でも精神的な不安定さを感じさせられることがありました。そこで、施設職員だけでなくオンブズマンも、透析や透析患者の心理について知っておく必要があるだろうということで、3ヶ月に一回開催の社会福祉法人翔の会施設長や職員とオンブズマンとの“ネットワーク会議”の折に、透析患者のピアカウンセリングをなさっている梅田和彦氏をお招きし、お話を伺いました。

透析は、週3回、毎回4時間かかり、通院も入れると1日24時間のうち6時間費やす。それを生涯続けなくては生きられない「時間の障がい者」とも言える。少しずつそうした自分の現実を受容していくが、うまくいかないことも多く、心の重圧感がある。体も不調となり、不定愁訴が起こる。透析自体心臓に負担がかかり、死が身近なものになる。

そのようなことから、抑うつ的・攻撃的(自分に起きた透析を受けなければ生きられないことへの自分自身に対する拒否・怒り・葛藤)になりやすい。しかし、攻撃している相手に向かって求めているものは「自分状況を解って欲しい」という心の叫と受け止めていただきたい。

また、透析医療が始まった頃は、当然限られた人数しか透析を受けられず、生産性のある働き盛りの男性が優先され、女性(健康保険の家族)や障害者や高齢者は尿毒症で亡くなっていった。その一方で、移植医療では臓器提供者は圧倒的に女性(母親)が多い。というお話で、医療での差別の現実を知らされ、少なからぬショックを受けたのでした。(江崎康子)





## 大石剛一郎のイギリス訪問記

### シリーズ 第1弾！！

今年の2月28日～3月7日、イギリスに行ってきました。目的は主として、「自閉症の障害のある人が事件を起こした場合に、イギリスではどのように対応しているか」についての視察でした。児童青年精神医療・心理・教育・マスコミなどの分野の人たちと一緒にきました。

自閉症の障害がある人が、十分に適切な支援がない状態で、周囲の無理解から、本人が精神的に不安定になり、人に危害を加えるような事件を起こしてしまった場合、その種の事件発生防止・再発防止に必要なものは、刑罰よりも、適切な支援です。つまり、刑事司法手続による対応よりも、福祉や心理や医療などの分野からの対応の方が必要です。そのことは万国共通です。

イギリスでは、特に重大な危険が発生するような事件について、刑事司法手続のほか、「保安病院」による対応が充実しています。そして、この保安病院でのケアに乗せる手続を「メンタルヘルス手続」と言います。

「保安病院」と言うと、日本の昔の保安処分や精神障害のある方々を病院に閉じ込めて一生出さないことなどが思い浮かぶかもしれませんが、イギリスの保安病院は違います。「地域で安全に暮らす権利は誰にでも保障されている人権である」という考え方が徹底されている中で、「どのような支援をつければ、その人権が保障されるか」について、熟考し、試行錯誤し、必要な支援を見つけ出し、本人にもトレーニングしてもらい、その支援を地域が保障されるよう配慮しながら、本人を地域に戻していく、そのための言わば「集中対応施設」がイギリスの保安病院です。

そして、いわゆる精神病患者だけでなく、自閉症の障害のある人に関しても、「適切な医療的ケアを有効に利用できる可能性のある人」ということで、刑事司法手続ではなく、メンタルヘルス手続の方で対応しよう、という試みが、イギリスでは積極的に対応されているのです。

保安病院にも、対応の難しさのレベルによって、高度・中度・低度の3種類があります。今回は、ロンドン近郊にあるブロードモア保安病院（高度保安病院）と、ニューキャッスル（ロンドンから飛行機で約1時間）にあるノースゲート保安病院（中度・低度・その他地域移行準備施設）を見ました。

その他、自閉症の障害のある人が加害事件を起こさないようにするための準備等のことを書かれた本で高名なパトリシア・ハウリンさん、不幸にして事件を起こしてしまった場合に駆けつける自閉症専門の弁護士、刑務所内での処遇・人権擁護に関する啓発活動を起点に、現在は発達障害者の事件に関する対応に焦点をあてた啓発活動も展開しているNPO法人、教育・司法・マスコミ対応その他いろいろな分野に目を向けて力強い活動をされているイギリス自閉症協会の方々、そして自閉症の分野では極めて著名な「ローナ・ウィングセンター」で、ローナ・ウィングさん、ジュディス・グールドさんらのお話を、聞くことができました。それぞれ非常に興味深いお話で、頭がパンクしそうですが、とてもとても満足でした。

今回は、この程度の紹介にとどめます。次回以降、視察の結果・内容についての説明と私の感想をすこし詳しく書きたい、と思っています。

(弁護士 大石剛一郎)



## 「第1回全国権利擁護支援フォーラム」に参加（2010年2月26日・27日）

全国権利擁護支援ネットワークに加盟する団体が東京・市ヶ谷に集い、全国権利擁護支援フォーラムが開催され、Sネットからは私が参加しました。本フォーラムでは、1日目は「権利擁護としての成年後見の課題と提言」をテーマに、パネリストとして成年後見制度に関わる3つの職能団体（日本弁護士連合会、成年後見センター・リーガルサポート、日本社会福祉士会）と日本成年後見法学会からそれぞれ登壇いただき、全国権利擁護支援ネットワークの代表である佐藤彰一氏さんのコーディネートのもと、成年後見制度施行10年を迎えるにあたって見えてきた課題についてそれぞれの立場から発言いただき、その内容について議論が展開されました。制度の中身や運用の改善について中身の濃い議論が交わされました。特に、私が印象に残ったのは、大阪市における市民後見人の取り組みで、市民後見人が福祉の現場に入ることによって福祉の現場が変わってきたという話でした。



2日目は「地域における権利擁護システムと権利擁護センター」をテーマに、パネリストとして厚生労働省老健局、地域で権利擁護支援活動を実践している民間団体及び社会福祉協議会からそれぞれ登壇いただき、主催のPASネットの上田晴男氏のコーディネートのもと、各地域の権利擁護の取り組みが紹介されました。国の動向と合わせ、自分たちの地域の権利擁護システムについて考えるよい機会となりました。

最後に、「全国権利擁護支援ネットワーク」事務局より、①権利擁護支援としての成年後見制度の確立、②虐待防止・支援体制の整備・充実、③地域における権利擁護支援システムの確立、という3つの柱が示され、「今後、地域の権利擁護支援を推進するネットワークを広げ、日本の権利擁護に関わる人たちが集い、支援を進める原動力として、このつながりを活かしましょう」という言葉で

### 事務局長交代のご挨拶

私、江崎康子は、2010年3月31日をもちまして、特定非営利活動法人湘南ふくしネットワークオンブズマンの事務局長を退任いたしました。前事務局長矢野氏の急逝により引き受けたリリーフの事務局長でしたが、全力投球を心掛け、時々息切れを起こしながらも、7年間、皆様のご協力と応援を頂き、おかげさまで、どうやら投げきることができました。心より感謝申し上げます。

後任、小野田智司氏にも変わらぬご協力と応援をよろしくお願い申し上げます。

なお、拙宅に設けておりました法人の従たる事務所を閉鎖いたしましたことを、ご連絡申し上げます。

**【閉鎖した事務所】 住所：藤沢市善行 4-3742-4 TEL：0466-81-9218**

小野田智司と申します。普段は福祉施設職員をしております。Sネットにかかわるようになり数年がたちました。毎月の施設訪問と委員会で振り替えりを繰り返していく中、毎日が勉強であり、気づきが多くあります。事務局長の任をさせていただきますが、これからもオンブズマンと地域の皆様と一緒に“その人らしく生きる”ことを考え続けられていければと思います。

若輩者で至らない点がたくさんあるかと思いますが、よろしくお願い申し上げます。





## 地域でその人らしく“夢のある生活”をしている方へのインタビュー♪♪

JR茅ヶ崎駅から徒歩15分ほど、若松町に、障害のある方たちが働く「夢ある街のたいやき屋さん」があります。「つぶあん」、「贅沢カスタード」、「お好み鯛焼き」、「抹茶（季節替わり）」の4種類のおいしい鯛焼きを売っています。

この度は、そんな「夢ある街のたいやき屋さん」で働く増藤 純氏にインタビューをしました。(以下、敬称略)(インタビュアー江崎康子)

**Q : 増藤さんのお仕事は?**

増藤 : 鯛焼きの生地を作ったり、中に入れるあんこを炊いたり、キャベツを刻んだり、パック詰めをしたり、在庫のチェック、配達、掃除、ゴミ出しなどを行っています。お店から出ていろいろなイベントであんこを売ったりもします。

**Q : 忙しいですね。たいやき屋さんにお勤めしたきっかけは?**

増藤 : 食べ物関係の仕事がしたくて、就労の面接があったので受けました。すぐに“合格”と言われて嬉しかった。

**Q : 仕事をしていて嬉しいことは?**

増藤 : やっぱりお客さんが買ってくれて、おいしいと言ってくれた時。あと、「あんこ」が欲しいと別売りにしているあんこを買いに来てもらった時ですね(あんこは増藤さんが作っている)。

**Q : 厳しいなと思ったことは?**

増藤 : あんこを炊いていた時のことです。決まった量を秤で測り、決まった手順で、タイマーで時間を計りながら炊いていかなければならないのですが、ある時、自分の勤ではまだ柔らかすぎると思って、タイマーが鳴っても火を止めず長めに炊いていたら、店長に注意をされてしまったことがあります。糖度計で糖度も測るし、入れる塩も普通の塩ではなくあんこ用の塩を使っています。(詳しい量・手順・時間をメモも見ずにすらすらと話してくださいました。)

**Q : お給料はどうですか?**

増藤 : 以前の一般就労で働いていた時より正直言って少ないです。でも、まあまあかなと思っています。

**Q : 仕事以外で楽しんでいることはありますか?**

増藤 : 今年の3月からちょっと余裕ができたので、スポーツクラブに入り、今日も楽しんできました。クラブでは毎週土曜日お天気の良い日には9時から10時まで海岸清掃ボランティアして、それからジムに行き、ランニングマシンで走ったり、腹筋の機械で運動をしたりします。以前居た「下宿屋(グループホーム)」に行くと仲間に会うのも楽しみです。お酒を飲むのも好きで、忘年会や新年会で飲んだり、たいやき屋のパートさんと飲みに行ったりすることもあります。

**Q : 最後に、将来の夢はなんでしょう?**

増藤 : 今はまだ鯛焼きが焼けないので、赤いバンダナ、赤いTシャツでバックをやっているけれど、青いバンダナ・Tシャツの鯛焼きを焼ける人になること。それから店長になることです。障害者の店長だっているじゃないですか、だから僕も店長になりたいと思っています。



増藤さんのように、地域で働き、余暇を楽しみながら、その人らしく生活している障害のある方がおられます。しかしまだまだ多くの障害のある方が、施設での生活を余儀なくされている状況です。その人らしく生活できることが当たり前な地域になるよう活動を行なっていきたいものです。(小野田智司)

### 賛助会員入会のお願い

私たちは、ノーマライゼーション社会の実現を目指し、権利擁護活動を行っています。賛助会員としてご入会いただき、私たちの活動をご支援くださいますようお願い申し上げます。

- ◇賛助会員会費 ・個人 年額 一口 1,000円 (一口以上)
- ・法人 年額 一口 5,000円 (一口以上)

- ◇ご入会の方法 : 郵便振替書により下記口座へ会費をお振込みください
- 郵便振替口座番号 : 00210-9-75496
- 口座名義人 : NPO法人 Sネットワークオンブズマン

### 一編集後記一

今号より大石によるイギリス訪問記がスタートします。海外での状況を知ることによって活動にどう活かせるか?次号もお楽しみに♪(小野田)

今年度より事務局長が若い(といっても30代ですが...)小野田に変わりました。引き続き広報も担当してもらいます。今年度もよろしく願います。(藤本)

